

牧師室から (2023.1.15)

一昨日 (11日) 鎌倉で長老修養会の準備の会合に出席した。今度の修養会のテーマは聖餐論である。カトリック及び主だった宗教改革者たちの聖餐理解の相違を学び合うことが主眼となる。そのことによって、それぞれの教会の礼拝で行われている聖餐に与る者が、より深く理解して、恵みを感じられるようになればと願っている次第である。

私の担当はカルヴァンであるが、私どもの長老教会にとってはとりわけ大事な人物であり、重責を感じている。私自身、カルヴァンの聖餐論を専門的に深く研究したわけではなく、所謂一般の牧師の常識程度しか知らなかったが、この度いろいろ学ぶ機会を与えられて、確かに大変であったが、とても恵みを受けた。聖餐式を執行するにあたって、以前とは異なった理解と思いにさせられている。詳しくはまた長老修養会のレポートをおして伝えたいと思っている。

聖餐論は500年前の宗教改革者たちにおいても、他のものは結構一致したが、この聖餐理解に関してはなかなか一致をすることができなかった深い問題である。そして今日の日本基督教団においても、この聖餐理解が、特に未受洗者の陪餐の可否を巡って、当人或いは当教会の信仰的立ち位置を判別するリトマス試験紙となっている。

私どもの教会は洗礼を受け信仰告白をした者が聖餐に与れるという信仰理解の下で一致していることを改めて確認しておきたい。

(鈴木淳一牧師)